

1 研究主題

「活用力の向上をめざして」

～ 学んだことを活かした授業づくりを通して ～

2 主題設定の理由

平成20年4月に実施された全国学力調査の本校（6年）の結果をみると、国語A・国語Bは、県及び国と同等あるいは上回っていた。算数A・算数Bは、県及び国を下回っていた。国語科の領域区分では、「読むこと」「書くこと」が低い傾向にあり、「書くこと」はその傾向が顕著であることが分かった。また、算数科の領域区分では、「数学的な考え方」が低い傾向にある。さらに、問題形式では記述式に抵抗感があるということが分かった。19年度に行われた全国学力調査の結果とほぼ同様の傾向であった。

7月に行った読書力調査を行った結果をみると、それぞれの能力が伸びていることが分かった。特に、本校の特徴として、読字力（漢字を読む力）が高いことが分かった。これは、朝の読書タイムの時間に取り組んできた成果といえる。

昨年度は「活用力」向上モデル事業の指定を受け、活用力向上に取り組んできた。その結果、平成21年2月に行った学力到達度テスト（全学年対象）の結果をみると、全学年とも基礎的・基本的な学習内容が定着してきていることが分かった。しかし、国語科においては「読む・書く能力」が他の能力と比べるとやや低い傾向にあることが分かった。算数科においても他の能力と比べると「数学的な考え方」がやや低い傾向にあることが分かった。

以上の結果をみると、計算や漢字の読み書き、教科の基礎的・基本的な知識や技能などの学習内容については、より定着度が増したようである。しかし、文章を正確に読み取る力や数学的な考え方、考えをまとめて書く力が、まだ弱いことが分かった。つまり、本校の児童には、基礎的・基本的な学習内容については定着してきているが、それらを活かした応用力、すなわち、活用力がまだ十分ではないと考えられる。

そこで、本年度も、「基礎的・基本的な学習内容の定着」と「今まで学習してきたことや自らの経験などを活用しながら課題を解決していく学習」が必要であると考えている。

3 研究の仮説

基礎的・基本的な学習内容を定着させ、それら学んだことを活かす授業作りを行えば、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力が育成されるであろう。

4 めざす児童像について

学んだことを活かすことができる子

- ・目的や課題に応じて、既習事項や友だちの意見などから必要な情報を取捨選択することができる子（判断力）
- ・根拠を明確にして自分の意見や考えを持つことができる子（思考力）
- ・自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる子（表現力）

5 研究の基本方針

基礎的・基本的な学習内容の定着と活用力の向上のために「活用力を育む授業づくり」「学びの基盤づくり」に取り組んでいく。

(1) 活用力を育む授業づくり

「思考力、判断力、表現力」の向上のために

ア 単元全体を捉えての手立ての工夫

○必要感を持たせる工夫

- ・目的意識、相手意識を持たせる。
- ・単元全体を通しての見通しを持たせる。

○単元構成の工夫

- ・習得した知識・技能を活用する場を工夫する。
- ・「習得型→活用力型」の学習活動を工夫する。

イ 一単位時間を捉えての手立ての工夫

○揭示の工夫

- ・授業の見通しを持てるような工夫をする。
- ・授業に活用できる揭示の工夫をする。

○板書の工夫

- ・何を学習し、何が大事かが分かるような工夫をする。

○課題設定の工夫

- ・多様な考えや既習とのつながりを意識できるように工夫する。

○考えをまとめ、伝えるための工夫

- ・自分の考えをまとめさせるための工夫をする。
- ・分かりやすく伝えるための工夫をする。

○まとめの工夫

- ・自分の言葉で表現させる工夫をする。
- ・分かったことだけでなく、どんな知識・技能を使ったかを意識させる。

(2) 学びの基盤づくり

ア 読書タイムの充実

- ・ 8時15分から8時25分まで、読書をする。
- ・ 教科書については、国語だけでなく他教科の教科書でもよい。
- ・ 学年にふさわしい読書をさせるために、町図書館員に本を選んでもらい、クラス単位で本を借りる。

曜日	内容
月	教科書を音読する。
火	自分で選んだ本を読む。
水	教科書を音読する。
木	自分で選んだ本を読む。
金	教科書を音読する。

イ 志雄タイムの充実

- ・ 帰りの会后、15分間、国語、算数の基礎基本を復習する。

曜日	内容
月	漢字・言葉の学習を中心に行う。
火	計算・作図の学習を中心に行う。
水	自分の考えを文章にまとめる。
木	計算・作図の学習を中心に行う。
金	漢字・言葉の学習を中心に行う。

ウ ことばの時間

- ・ 文法学習、正しい文章を書くための時間として、「ことばの時間」を設ける。
- ・ 時間割の中に明記する。
- ・ 1年～4年は週1回、5、6年は2週に1回行う。

エ 家庭学習

宿題、自学など家庭学習の時間の目安を決め、意識付けを図る。

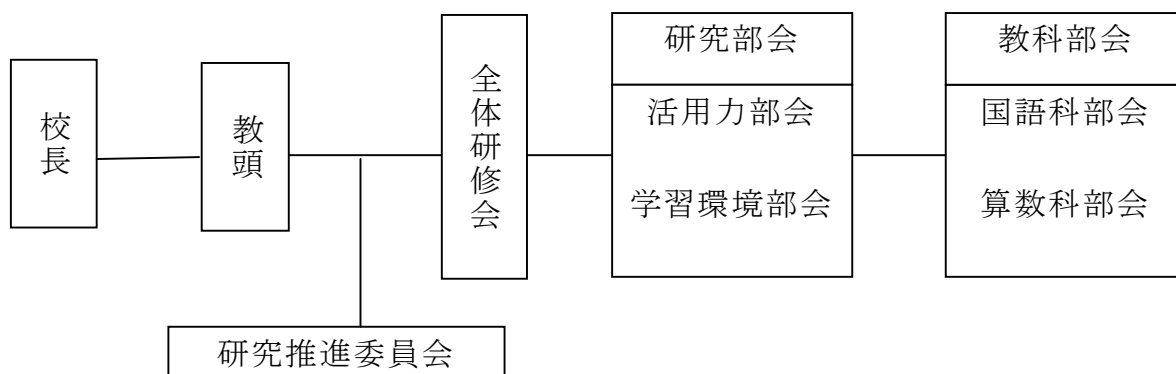
低学年 20分～30分

中学年 30分～60分

高学年 60分～90分

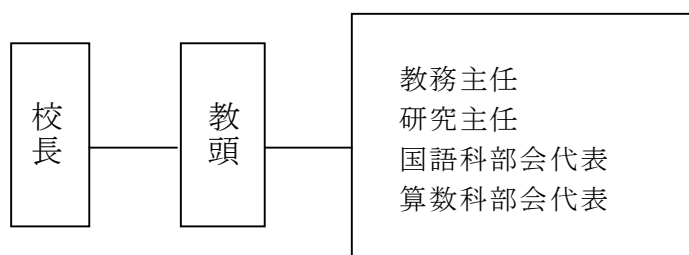
6 研究組織

(1) 組織図



(2) 研究推進委員会

- ・ 研究の基本的な方向について立案し、全体研修会に提案する。
- ・ 各研究部の連絡調整と授業研究や研修会の計画と立案をする。



(3) 部会

① 研究部会

ア 活用力部会

- ・ 各教科と活用力の関わりや活用力向上のための手立てを具体的な形にして、全体に提案をする。
- ・ 高めあえる授業の進め方や手立てについての具体的な取り組みの提案をする。
- ・ 児童の実態把握をする。

イ 学習環境部会

- ・ 基礎的・基本的な学習内容の定着をはかるための具体的な提案をする。
- ・ 学習環境の整備について具体的な形にして全体に提案をする。

② 教科部会

- ・ 研究授業の実施にあたっては事前研究会を開き、授業展開等を分析し、検討する。
- ・ 研究授業の後、事後研究会をもち、研究テーマにそって分析する。
- ・ 推進委員会や活用力部会・学習環境部会からの提案の実現に協力してあたる。
- ・ 国語科、算数科におけるめざす児童の姿を検討する。

(4) 体研修会

① 校内研修会

全教職員で構成し、研究推進委員会からの提案や各部での諸問題について協議し、共通理解を図り、研究を推進する。

② 授業研究会

研究授業の事前研究会・事後研究会を開き、学校研究に沿った授業展開等が実施できるように検討、分析を行う。事前研究会は各教科部会で、事後研究会は全員参加体制で行う。